

知らないこと

和田中学校 二年 古西 瑠花

私は、同和問題や人権問題について興味があり、学校の取り組みである自主的に人権問題について学ぶ「たちばな学級」に参加し、多くのことを学んできました。昨年はコロナウイルスの影響で現地学習や講演会に行けなかったけど、今年には行けたのでもっとももっと多くのことを学びました。一番印象に残っているのは、丹波市中学校人権学習交流集会で同和問題について塚本一男先生の講演を聞いたことです。講演のテーマは「差別を許さない生き方のために」でした。塚本先生が講演の中でおっしゃった人権とは、「自分も人も大切にするために人権教育がある」ということでした。このお話は以前も聞いたことがあり、すごく印象に残っていました。そして、「人権学習は教える教えられる関係ではなく、学び合う関係だ」とおっしゃいました。私はすごく納得し、思わずうなずいてしまいました。

いまだ部落差別があり、数年前に起こったネットでの拡散問題についてお話してくださいました。就職や結婚でも差別があるそうです。私はこのようなことは過去のことでと当然のように思っていました。今もこんなにたくさんの差別が残っていると知り、「おかしい」と思うと同時に「許せない」と思いました。差別をなくすためにたくさんの法律が作られています。でもなくなるのです。おかしいですね。私はすごく思います。

そこで、私はなくなる理由を考えてみました。少し考えただけでもたくさん見分かりました。私たちの生活の中にはたくさんの差別が起きています。人の言動の中にたくさん含まれていると知り、自分自身を振り返ってみると、自分は差別をしていないと言い切れないなと改めて思いました。自分は差別をしていない、関係ないと思っている人がいると思います。しかし、一切関係ないと思っていることが問題なのです。身近で起こっていることに気づけないことで新たな差別を生み出すのです。みなさんも耳にしたことがある「コロナ差別」。数年前には聞かれなかったものです。性的マイノリティに対する差別、子どもや高齢者差別も問題になっています。ハラスメントやジェンダー、ヤングケアラーの問題もよく耳にするようになってきました。このように知らないだけで身の回りにはたくさんの人権問題が潜んでいます。

私は、たちばな学級に入って、たくさんの人権問題について考えてきたけれど、知らないことはまだまだあるということ、差別は決して消すことのできない、人を傷つけるものだということ、時には気づかずに傷つけていることがあるということ、時を改めて知りました。これからも様々なことに興味を持って考えを深め、

学んだことを広めていきたいと思います。